

[9] 西都市小体連

I 年間事業

実施日	曜	事業名	主な内容	会場
6月11日	金	第1回体育主任会	○主題研究の年間の計画 ○泳力向上プログラム	妻北小学校
8月27日	金	第2回体育主任会 *新型コロナウイルス感染症拡大のため延期	○主題研究の計画 ・研究授業授業者決定 ・研究授業の計画 ○泳力向上プログラム反省	妻北小学校
11月4日	木	第2回体育主任会	上に同じ	妻北小学校
11月30日	火	第3回体育主任会	○研究授業 妻南小学校 第1学年 単元：体づくり運動遊び 授業者：串間洵郎教諭 ○事後研究会 ○研究のまとめとその方向性検討	妻南小学校
1月下旬予定		第3回体育主任会	○主題研究のまとめ ○次年度への引継確認	妻北小学校

II 事業部のあゆみ

- 西都市小学校泳力向上プログラム
各学校で5・6年生を対象に、記録会を実施し、25m以上泳げた児童に対して西都市小体連が表彰。
- 陸上記録会
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

III 研究部のあゆみ

1 研究主題並びに副題

主体的に運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育学習の在り方
～体づくり運動の授業実践を通して～

2 主題設定の理由

平成30年度までの研究で、1単位時間の学習過程や単元構成の見直し、主体的・対話的で深い学びの視点を授業の中に積極的に取り入れることができた。また、学び合いによる学習内容の深化を図ることもできた。研究の流れとしても、「器械運動」領域については5か年の継続研究を行い、ポスターセッション発表も行った。しかし、学び合いの時間を十分に確保しながら、基本的な技能がより高まるための手立てや先生の困り間の解消につなげる部分において課題が残った。

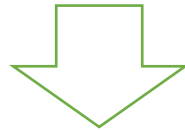
そのため、県の研究や課題を取り入れた研究も参考にしながら「体づくり運動」領域について昨年度より4か年計画で、本主題について研究している。昨年度はアンケート調査を実施し、「体づくり運動」に対する教員の意識、実践状況、教員の理解度等を調べた。その結果、西都市の教員の実態として、「体づくり運動」の重要度は理解しているものの、指導面において課題を感じている教員が多いことが分かった。体育主任だけでなく、体育の授業に苦手意識を持っている教員も指導できるよう、研究を引き続き行っていく。

3 研究の内容

令和元年度 体づくり運動の授業の実態調査、課題の分析
令和2年度 先進研究の視察・研修（九州学体研中止のため）
研究授業の実施（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）
体づくり運動の実践及び実践例の作成
令和3年度 研究授業の実施
西都市ならではの体づくり運動の研究推進
令和4年度 実践報告会の実施

4 研究の仮説

どの子どもも参加できるように指導内容を精選し、簡単な場の設定や、
ルールの工夫をすることで



児童が主体的に運動に取り組み、教師自身の指導のハードルも下がるであろう。

5 研究の実際

(1) 研究授業の実施

児童が主体的に取り組み、また教師自身が指導しやすいよう指導内容を精選し、場の設定やルールを工夫した授業を展開した。

単元名	学年	授業者
体づくりの運動遊び (多様な動きをつくる運動遊び)	1年生	妻南小学校 串間 洵郎 教諭

(2) 授業の概要

1 本時の目標

- 体を移動させる動きの多様性に気付き、それらを組み合わせて運動遊びをすることができる。

2 本時の展開

- 本時においては、様々な移動の仕方があることを知り、それを組み合わせて運動遊びを行っていく。

はじめの段階では、前時の学習を振り返り、本時の学習の流れや安全面について確認させることで、学種への意欲と見通しをもたせた。

なかの段階では、グループ活動を行う。まず、「主運動につながる動き」である、「どうぶつ歩き」と「まねっこ走り」を行い、多様な移動の仕方に触れさせた。その際、グループごとにどんな動きをしたか発表させたり、教師が紹介したりすることで、他者のよいところを認め合う姿の醸成を図った。次に、動きを組み合わせた運動遊びを行った。その際、勝ち負けにこだわりすぎず、ルールを守って活動できるように促した。

まとめの段階では、本時の振り返りを行った。「上手にできたこと」や「友達と協力できたこと」を記入し、発表させることで、自己の体のことをメタ認知させるとともに、称賛することを意図した。

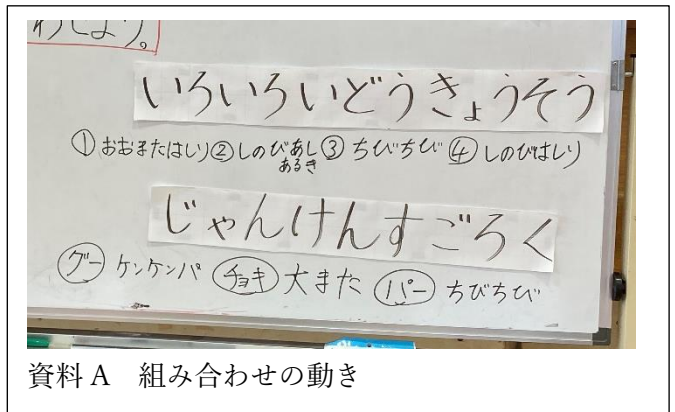
(3) 仮説に基づいた授業とその結果

①指導内容の精選

一単位時間での学習計画ではなく、系統的な学習計画を立て、前時の学習を生かした展開を計画し、実施した。

本時の活動の中心となる動きの組み合わせを考える際に、前時で学習した動きから選択させることで、児童に困り感もなく、スムーズに運動に取り組むことができた。一時間ごとの活動ではなく、継続的な活動を計画することで児童も活動に取り組みやすくなる。

また、どのように組み合わせればよいかを考えることで動きの性質を理解することにもつながった。



資料 A 組み合わせの動き



資料 B 体じゃんけんすごろくの様子

○ ワークシートの工夫

学習の振り返りとしてワークシートを活用した。学習カードを活用して、自分が考えた動きや組み合わせと自分の動きを客観的にとらえること意図して作成した。そのために、言葉で振り返ることができるように項目を設けた。また、1年生ということも踏まえ、時間がかかることが予想されるため、内容を簡素化し、予め例示したり、端的に書いたりするを促した。簡素化した中でも、知識・技能や思考力・判断力・表現力などを評価できるような項目にし、教師自身がワークシートを見て、評価しやすい形式とした。

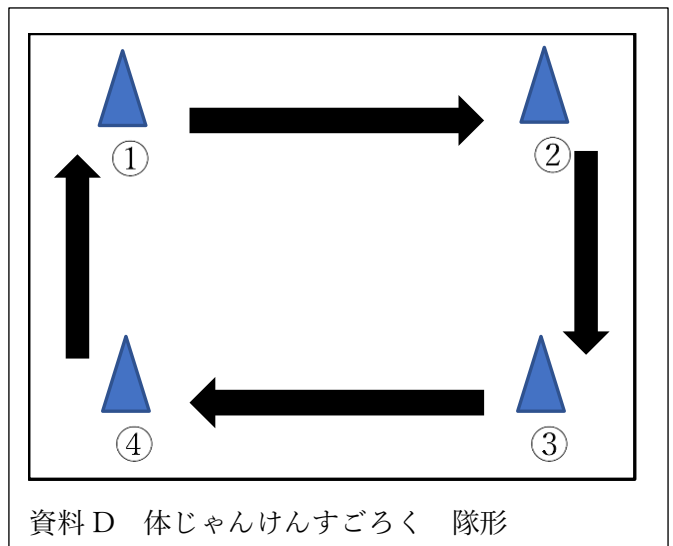
月	ともだちと なかよく うんどうが できた。	◎ ○ △
日	たのしく うんどうが できた。	◎ ○ △
日	うんどうを くふうすることが できた。	◎ ○ △
しよすにできたことをかこう		

資料 C ワークシート項目

(3) 簡単な場の設定やルールの工夫

○ 場の設定

体育の授業準備の際に教師の負担となってしまうのが場の設定である。今回の授業では、簡単な場の設定を意識して授業を作っていた。右の資料は「体じゃんけんすごろく」を行った際の場の設定である。コーンを4つ置くというシンプルな場の設定にすることで、簡単に準備することができ、児童や教師の負担にならないよう工夫した。



資料 D 体じゃんけんすごろく 隊形

○ ルールの工夫

「体じゃんけんすごろく」

【やり方】

- ① 資料Dの①から④の場所で体じゃんけんをする。
- ② 体じゃんけんに勝ったら次のコーンへ進む。負けたらその場で次の人を待つ。
- ③ 移動の仕方は、これまでの学習で行った動きの中から決める。グー・チョキ・パーの3種類
- ④ 1周目は赤帽、2周目は白帽にするなど、どれだけ進んだか分かるようにする。

運動の終わりを設定せずに取りませたり、単純にじゃんけんをしたりするのではなく、体じゃんけんをすることで、運動量を確保した。また、運動ができる児童が優位に立たないようにじゃんけんをルールに取り入れることで、全ての児童が意欲的に運動に取り組めるようにした。

5 成果と課題

① 成果

- 子どもから動きを選択させることで、意欲的に運動に取り組むことができた。
- 場の設定がシンプルにすることで児童にも分かりやすく、教師自身の負担軽減にもつながった。
- 学級単独の体育だけではなく、複数学級での体育の授業でも行うことのできる内容であった。

② 課題

- 主運動に「いろいろどう競走」、「体じゃんけんすごろく」を設定したが、時間に余裕がない部分があったので、どちらか一方にすることで活動に時間に余裕が生まれると感じた。
- 動きの組み合わせを選択させる場面では、児童の選択に偏りが見られた。性質の異なる動きの中から、意図的に選ばせると、単に組み合わせるだけでなく、より効果的な動きが身につけることのできる授業になったと感じた。